

令和8年度第3回南三陸町歌津観光交流施設検討委員会 会議録

1 日 時：令和8年8月21日（金）午前10時から正午

2 出席委員：9名

阿部洋委員、牧野隆明委員、中村未来委員、及川庄弥委員、佐藤太一委員、
今藤和義委員、高橋直哉委員、内ヶ崎彩委員、滝川剛盤委員

3 欠席委員：4名

阿部國博委員、栗林美知子委員、吉田信吾委員、三浦洋昭委員

4 出席職員：3名

商工観光課長 小野寺洋明（事務局）

商工観光課長補佐兼係長 佐藤守謹（事務局）

商工観光課主事 佐藤悠（事務局）

午前10時開会

（佐藤補佐）

皆様、本日はお忙しいところお集まりをいただきありがとうございます。ただいまから、第3回南三陸町歌津観光交流施設検討委員会を開催いたします。本日の会議ですが、出席委員9名、欠席委員4名となっており、南三陸町歌津観光交流施設検討委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、委員の過半数が出席されておりますので、会議が成立することを申し上げます。それでは、早速会議に入りたいと思います。及川会長、議事進行等よろしくお願いいたします。

（及川会長）

第3回目の会議となります。では、次第に基づいて進めていきたいと思います。早速ですが、次第2「前回の振り返り」ですが、事務局へ説明を求めます。

（佐藤補佐）

【資料に基づき説明】

（及川会長）

ありがとうございます。前回会議の振り返りということで、基本コンセプトについて触れていただきました。基本コンセプトについては、当会議で、何度も何度も議論していただきました。それを反映させたものだと思います。「施設」を「拠点」に直したのになりますが、この内容で決定をしてよろしいでしょうか。

【委員からの質問や意見はなかった】

次に、次第3「導入機能の詳細検討」に入ります。この内容について、事務局に説明を求めます。

(佐藤補佐)

【資料に基づき説明】

(及川会長)

ありがとうございます。資料3ページにこれまでの「歌津の観光を語るタベ」や検討委員会で挙げられた意見を踏まえ、歌津の資源等が記載されているが、これを基にターゲット等を検討していくといった認識でよろしいか。

(小野寺課長)

あくまでも、資料3ページに記載されている内容はたたき台にすぎません。皆様から意見を出していただくことで、他にも資源と呼ばれるものが出てくると考えております。必要となる資源が取り揃った時点で、その資源を使用して、どのように人を呼び込むのか、そのターゲットは誰なのか、その賑わいを創出するためには、ハードが必要なのか、ソフトが必要なのか、ハードであれば既存施設で対応できるのか、新たに整備しなければならないのかといったことを資料3ページに記載されている縦の順番で検討してもらいたいと思っております。

(中村委員)

例えば、資料には、資源を海産物とした場合、賑わい創出のために必要なこととして「直売所」が記載されているが、歌津地区だけで考えるのではなく、南三陸町全体で考えていく必要があるのではないだろうか。海のビジターセンターでは、魚を捌くワークショップを実施しているが、同じような機能を有する施設が、この小さな町に複数も必要なのかといった思いがある。事務局にて整理をしていただいた項目について、今から話し合いをすることになるが、町内で既に導入されている機能も加味してよいのか、歌津地区だけに着目すべきなのか、どちらか。

(及川会長)

志津川地区との連携を含めた形で、検討を進めるべきかと思う。

(中村委員)

ターゲットは直感的に観光客だと思う。しかし、気仙沼市では、遠洋漁業の漁師達が朝から開いている食堂が市場の近くにあり、利用しているのを考えると、ターゲットは漁師になるのではないだろうか。

(阿部洋委員)

志津川地区では、東日本大震災前は食堂に行っている漁師の方がいたが、最近では見受けられない。

(及川会長)

漁業といっても、養殖漁業や遠洋漁業など様々ある。それぞれの特色を出した形で、資源として活用できるものがあれば、意見としていただきたい。

(佐藤委員)

海との接点を考えたときに、人と人が接する海水浴場も資源に入るのではないかなと思う。

(滝川委員)

確かに、今現在、歌津に海水浴場があるのかどうかは分からないが。それがあればとてもいい。

(及川会長)

以前は、長須賀海水浴場があった。現在は泊浜地区において、子ども達が海水浴ができるような場所を地区の方々が管理している。しかしながら、観光客を対象とした海水浴場は歌津地区にはない。

(中村委員)

佐藤委員の海水浴場を資源に追加するという意見で感じたのが、プライベートビーチを富裕層向けに売り出すのも一つではないだろうか。志津川地区はファミリー向けの海水浴場といった位置づけで、それぞれ違う路線で進めるのも良いと思う。

(佐藤委員)

それをするとすると、ロケーションも資源に入ってくる。

(及川会長)

港地区にいいビーチがある。

(中村委員)

簡単に立入可とすると、ごみ問題等の環境汚染に繋がる可能性もあるので、ある程度の規制を行い特別感を出すのが必要だと思う。

(及川会長)

話は変わるが、「体験」に着目すれば、海産物の殻剥体験や高橋委員が行っている釣り体験など、様々なものが挙げられる。

(高橋委員)

漁業体験は、多くの方を受け入れたいと思っているが、そう考えた場合、施設があれば容易にできる。船に乗った漁業体験はこれからますます規制等が厳しくなり、天候等にも左右される。漁業体験をするのであれば、陸上で施設内というのがベストだ。

(及川会長)

ウニやホタテの剥き身体験等もある程度の大きい施設がなければ行うことはできない。

(中村委員)

教育旅行だと、大人数で農業体験に来たりするが、過去には町で受け入れていたが、岩手県の

陸前高田市に農業体験ができる大規模な施設が建設され、多くの人はそこに行ってしまう。

(佐藤委員)

食の部分にも関係するが、これまでの話を踏まえると、既存や新設を別として、資源に入るかは分からないが「大きいスペース」的なものが必要になってくる。

(及川委員)

海に関する資源で多くの意見をいただいた。他にもしあれば、意見をいただきたい。

(高橋委員)

事務局から資源についての項目を埋めていただいているが、この内容でいいと思う。

(及川会長)

マリナクティビティは寄木地区等ですることができると思う。

(高橋委員)

理想は伊里前海岸ではないだろうか。

(佐藤委員)

導入機能の詳細検討についてだが、どの順番で話し合いを進めていく予定か。

(及川会長)

「資源」「賑わい創出のために必要なこと」「ターゲット」の順で考えている。

(小野寺課長)

資料に記載されている内容について、縦の順に進めた方が整理しやすいかと思います。

(及川会長)

承知した。では、次に「化石」についてだが、皆様から意見等がありますでしょうか。

(高橋委員)

化石については、新種のものや研究中のものが沢山ある。

(及川会長)

皿貝については、中世代の化石物があると有名な場所になっている。

(佐藤委員)

資源に化石の発掘場所も入れるべきだ。

(及川会長)

化石の発掘場所としては、真っ先に「皿貝」や「館浜」が挙げられる。

次に「山」についてだが、既に資料には、田束山、穴滝、蜘蛛滝、みちのく潮風トレイルが記載されておりますが、他に何かありますでしょうか。

(佐藤委員)

是非、林業や人工林そのものを入れていただきたい。林業体験もできるし、人工林そのものも素晴らしいものが沢山ある。

(中村委員)

田束山はツツジの時期だけでなく、年中通して素晴らしい景色を眺望することができる。ツツジだけに限定せずに、全体を資源として入れてもらいたい。また、資源として活用できるか分からないが、弘川ダムも入るのではないだろうか。

(高橋委員)

資料に蜘蛛滝が資源として記載されているが、この場所で新種の蜘蛛が発見されている。加えて、既に終わってしまったが、昆虫展も行っていた。世界の生き物と南三陸の生き物を比べるという意味で、山の生き物を資源に入れるのも良いのではないかと思う。

(小野寺課長)

「歌津の観光を語る夕べ」でも、田束山に鳥や虫を見に大学の先生がよく訪れているという話が出ました。

(及川会長)

田束山は金華山から大船渡まで見ることができ、この景観も資源に入るのではないだろうか。

(中村委員)

田束山から見る景色については、南三陸ワイナリー株式会社のぶどう畑と海の組み合わせがとても素晴らしい。

(及川会長)

樋の口地区の不動尊も何かしらアピールが必要だと感じる。これは、穴滝や蜘蛛滝に行く途中にある。

(阿部洋委員)

いずれも、歌津地区の魅力ではある。そう考えれば、遊歩道の整備も必要なのかと思う。

(中村委員)

トレイルルートに関連した歴史等もあるので、それを踏まえれば、民話も資源の一つに入れてよいと思う。

(佐藤委員)

観光の一種でクリプトツアーといった地域の不思議や伝説を辿るものがある。海外では少しずつ盛んになってきている。それを踏まえれば、資源として民話等を入れるのは良いことである。

(牧野副会長)

トレイルコースは、色んな方々に歩いてほしいと思うのだが、付近に車を駐車するスペースが無いのが残念である。樋の口集会場に駐車スペースがあればいいとは思っているのだが。

(及川会長)

では、「山」については、一旦このあたりでよろしいでしょうか。では、次に、「川」について考えたいと思います。資料には、シロウオが記載されているが、田束山のツツジが咲き終わるころに、シロウオが川に上るが、何か関連付けたイベント等ができればいいのだから。

(佐藤委員)

歌津では川釣りをする方は多いのか。

(及川会長)

どちらかと言えば、溪流釣りが多いと感じる。特に弘川ではヤマメ等が釣れる。

(中村委員)

弘川ダムが完成する前には、ウナギが釣れていた。

(牧野副会長)

イワナも釣れる。

(中村委員)

サワガニもよく見る。

「田束山から海に繋がる」というテーマで地元の方から話を聞く機会があったり、私自身も地区の環境（水）について、子ども達に話をする機会がある。それを踏まえれば、環境学習等も地域資源に入るのではないだろう。

(及川会長)

では、「川」についてはこの辺でよろしいでしょうか。次に「歴史」について、質問や意見をいただきます。

(高橋委員)

吉野沢の収蔵庫や歌津中学校敷地内の民俗資料館に貴重な歴史的な物があるが、これも資源として入るのではないだろうか。

(牧野副会長)

鋤等も入るのではないだろうか。

(佐藤委員)

南三陸町には、志津川町史、歌津町史の二つがあると思うが、そこから資源の情報を抽出するのも一つの手段だと思う。

(及川会長)

では、「歴史」についてはこの辺にして、次に「遊び」について検討します。ふわふわドームや平成の森が資料に記載されていますが、この他に何かありますか。

(牧野副会長)

マリンアクティビティが資源として挙げられるかと。

(佐藤委員)

虫捕りや山遊びも資源に入る。また、夜の食というか夜の飲み屋等が全体的にあればいいのではないかと思う。

(及川会長)

次に「食」についてお伺いしたいと思います。これには、スイーツ、民宿、タイ料理、海藻カフェ等も資源として入るのではないだろうか。

(滝川委員)

マツモも入るのではないだろうか。

(及川会長)

マツモの陸上養殖施設は完成したのか。

(滝川委員)

完成した。今月お披露目会を開催する予定である。この施設ではタオヤギソウも取り扱う。

タオヤギソウは、昔、気仙沼で一部の漁師の方が食べていたマイナーな海藻だ。南三陸で養殖を行ったらすごく有名になるのではないかと思う。

(中村委員)

海藻は食べるだけでなく、見ているだけでも美しい。

(及川会長)

では、「ハブ」についてお伺いします。

(佐藤委員)

南三陸ハマーレ歌津付近の空き地が入るのではないだろうか。

(高橋委員)

その近辺であれば、ハマーレ広場も入ると思う。

(佐藤委員)

そうすると、伊里前地区がハブという考え方もできる。

(及川会長)

資源については、皆様から様々な意見をいただいたので、次の「賑わい創出のために必要なこと」に進みたいが、よろしいでしょうか。

(滝川委員)

「海」「化石」「山」「川」「歴史」「遊び」「食」「ハブ」の他に、生態系も加えた方がいいと思う。南三陸町に住んで驚いたことは、山道等を車で通ったらカモシカに遭遇したり、雉にも遭遇したりした。コクガンも生息しているので、これは魅力の一つに入る。

(及川会長)

確かに、ネイチャーポジティブも町の一つの売りになっているので、それを踏まえれば、生態系も資源の一つに入る。

では、「賑わいの創出に必要なこと」について、「海」の視点から検討しましょう。

(佐藤委員)

結局、食堂なのかもしれないが、海産物の楽しみ方の提供をしなければならない。賑わいの創出に必要なこととすれば、料理人が出てくるのかもしれない。

(中村委員)

志津川地区で言えば、タコについては、その店で茹で方や塩加減も違う。牡蠣やホタテにしても、タコ同様に店ごとに違ったこだわりがある。その違いがあることがある意味面白い。

(佐藤委員)

イベント等を企画する能力も必要なものだと思う。

(中村委員)

南三陸ネギ等を使用してキッシュなどを作っていた方がおり、私も参考にすることがある。気仙沼市では、気仙沼の食材を活用したイベントがあり、それはレシピを子ども達が提案して、プロの方が具現化するものであった。そういったイベントもこの町で行うことは可能だと考えている。

(高橋委員)

今の話を踏まえれば、衛生的な施設が必要になってくる。

(及川会長)

一応、歌津公民館にはキッチンの機能を持った部屋はある。また、かもめ館にもある。

(中村委員)

歌津公民館にある調理施設の規模はどれくらいか。

(及川会長)

そんなに大きくはない。料理については漁業体験とも関連付けて賑わいの創出を生み出すことは可能なのではないだろうか。委員さんにも釣り船を運営している方がいるが、釣り体験や釣り教室を行うのも面白いと思う。

(佐藤委員)

資源の検討に戻ってしまうが、「生態系」に加えて、「人」といったカテゴリーも必要ではないだろうか。

人に会いに来るというのも目的になる。賑わい創出関連の話に戻るが、マリンアクティビティ等を行うにしてもライセンスを持った人や組織、団体が必要になる。

(及川会長)

次に、「化石」の視点から意見をいただきたいと思います。化石展示、化石発掘体験、現地見学等が資料に記載されておりますが他にどんなか挙げられるものはありますか。

(高橋委員)

展示だけでなく、収蔵機能というの必要だと思う。

(佐藤委員)

これに加えて、学芸機能も重要。博物学としてしっかりと価値のあるものにしなければ、展示はできない。

(及川会長)

高橋委員は化石の関係で、東北大学の先生方と関わっていると思うが、その中で、学芸機能の面等においても指導をいただきながら、進めてもらいたい。

(佐藤委員)

学芸機能は指導を受けたものを管理する機能を指すので、指導を受けた情報を活かした状態にしなければいけない。

(中村委員)

ネイチャーセンターは学芸機能がしっかりしているので、それを手本にすることも必要だと思う。

(及川会長)

次に、「山」の視点について意見等をいただきたい。

(高橋委員)

案内窓口は必要。

(阿部洋委員)

田束山に向かうまでのルートについて、わかりづらいので案内看板の設置は工夫していただきたい。

(佐藤委員)

各施設や場所を使用する上で、利用ルール等はあるのか。利用する上での決まり事等が必要だと感じる。人を受け入れるにあたってのルールは整備すべきだ。

(中村委員)

田束山の山頂付近は国立公園地帯にあるので、のぼり旗を立てるにも決まりがあったと記憶している。

(及川会長)

では、次は「川」についてだが、これは、田束山のツツジの時期と合体したイベント等があればいいと思う。ツツジの見頃の時期に、せっかく山頂まで足を運んでいただいて、その後、何もせずに帰ってもらうのは非常にもったいない。

(牧野副会長)

イベントは、南三陸ハマレ歌津で行っている。町も共催といった位置づけで関与していただければ、良いものになるのだが。

(及川会長)

「歴史」については何かあるか。

(高橋委員)

先ほどの話と重複するが、収蔵庫等に保管されている、歴史的な物を展示することが必要だ。

(及川委員)

確かに、収蔵庫には、東南アジアの魚竜化石等あるが、そこに保管されていても、誰も見ないので、とてももったいない。

次に、「遊び」について意見をいただきたい。ドッグラン、屋根付き遊び場等が資料に記載されている。屋根付き遊び場については、以前事務局から写真を見せていただいたが、子ども達が運動をする施設などが想定される。それが、ふわふわドームと連携すれば、賑わいが創出されると思う。イベントの開催やグラウンドゴルフ等でも活用できる。

(内ヶ崎委員)

地域の母親たちが求めているのは、子どもが夏の暑い時と冬の寒い時に遊べる場所である。テントが張られたもので、エアコンが完備しており、ボールや風船が1個でもあれば、子ども達は遊べる。そういった施設がふわふわドームの隣に整備されていればよい。具体的なことは、今後、検討が進んだ後に話をしたい。

(及川委員)

次に、「食」については、先ほどもいろいろと意見が出ましたが、資料では、直売所や食堂と記載されております。この他に何かございますか。

(佐藤委員)

イベント等が挙げられる。

(及川会長)

漁協等と連携しながら何かしらの催しができればよいのだが。

(阿部洋委員)

できないことはないが、漁協は職員数が少ない。

(佐藤委員)

一つの団体だけでなく、複数の団体が連携することが必要だ。複数の団体が協力すれば、多くのことができる。

また、イベント・企画について、外部の団体が主催するのはとても良いことだと思うが、地元の人達が積極的にイベントをやりたいという雰囲気や文化になっていくことがとても重要。

あとは、プロモーションや発信機能も必須だ。

(及川会長)

それには、スタンプラリー等が紐づく形か。

(佐藤委員)

そうなる。化石スタンプラリーは好評だったし、スイーツ協会もスタンプラリー的な催しを活用していた。

(及川会長)

最後になるが、「ハブ」について意見をいただきたい。

(佐藤委員)

ハブなので、そこからどのように展開させるかというのが考えるべきことになる。レンタサイクルは一案として良いのではないかと思います。モビリティや移動手段の提供が重要だ。

(牧野副会長)

実は、南三陸ハマーレ歌津ではレンタサイクル機能はあるが、実際に利用される方は少ない。

(佐藤委員)

観光協会でも、以前、レンタサイクルを行っていたが、そこには苦戦をしていた。

(中村委員)

町で、デマンドバスを導入しているが気軽に利用できない。利用者登録の手続きがあるが、町外利用者の方に対してはもう少しハードルを下げる等した方がいいと感じる。

(内ヶ崎委員)

以前、みなハピで利用した際に、生涯学習センターから結の里まで200円かかった。BRTであれば、一区間80円程なので、それと比較すると高い。

(及川会長)

皆様から様々な意見が出ました。事務局では、それらをまとめていただければと思います。

(佐藤補佐)

本日の会議を欠席された、吉田委員から文書にて意見をいただいております。

【資料に基づき、吉田委員の意見を説明】

(及川会長)

この吉田委員の意見も踏まえながら、内容をまとめてもらいたい。

今藤委員、これまでの内容について意見等があれば是非、発言いただきたい。

(今藤委員)

前回、欠席をしてしまったので、なかなか内容を理解するのが難しかった。何を行うにしても情報発信は重要である。移動手段の話もあったが、仙台でも、るーぷる仙台といった乗り物が走っており、観光地を回っているものなので、そういったイメージが参考になると思う。

(及川会長)

ありがとうございます。皆様から貴重な意見をいただきました。では、進行を事務局に戻します。

(佐藤補佐)

及川会長、議事進行ありがとうございました。

まだ、「ターゲット」「ハード」「既存 or 新設」「運営方法」に関する検討は残っておりますので、次回も引き続き議論をお願いいたします。本日、皆様から出た意見を再度まとめまして、資料を作成いたします。

(小野寺課長)

「人」や「生態系」が出ましたが、「人」については「ガイド」や「人に会いに来る」といった内容が紐づき、「生態系」については「カモシカ」等が紐づくといった認識でよろしいでしょうか。

(佐藤委員)

よろしいのではないだろうか。

今後の議論の進め方として、資料の空欄となっている事項を我々が一つ一つ意見を挙げていき設定していくといった認識でよろしいか。

あとは、この内容を最終的には誰がまとめるのかというのも気になる。

(及川会長)

まだ議論はしていないが、ターゲットは重複することが想定されるので、ある程度ひとまとめにできる部分もあるのではないだろうか。

(佐藤委員)

最後の成果次第で、どこまで求められるのかによって変わってくる。伊里前地区という大きなエリアでどういうものが詰まっているのかを細かく精査して総合的にまとめていくのか、それとも全体的に何らかのものが必要とまとめていくのかによって、結論は変わってくる。最終的には、国の交付金の申請に関わってくる事項でもあるので、慎重に取り組まなければいけない。

(及川会長)

今日も、資源等について細かく議論したので、最終的には町で方向性を決めてもらえればいいと思う。

(小野寺課長)

検討委員会の委員の皆様の意見として、資源、人を呼び込む方策、人を呼び込む方策に必要となるもの等を報告書として提出していただきたいと考えております。

(中村委員)

私は、資料に記載されている「既存 or 新設」と「運営方法」の結論出しが、この検討委員会ではとても重要なものになると感じている。これらの事項については、しっかりとした議論を行う必要がある。

(佐藤委員)

中村委員のおっしゃるとおりだ。物事を細かく精査し、議論をしたうえで、施設等が必要かどうかを考えていかなければならない。

(小野寺課長)

検討の段階で細かく議論をした方が、皆様の共通認識や理解も深まると感じております。

(中村委員)

今日の会議では、時間が足りずに、ターゲットの検討を行うことはできなかったが、賑わいの創出のために必要だと感じたのは、観光客が町外から来てもらう視点の取組が多い。町に住んでいる子どもや親という視点で、この町に住んでいる私たちが、資源カテゴリーの中でどういう関りができ、日常の中でどのように活用できるかというところも考えていかなければならないと思う。

(佐藤委員)

個人的には、ターゲットの議論はもう少し後の段階でもよいのではないかと感じた。

(佐藤補佐)

様々な意見をいただきありがとうございます。

次回の会議の開催日時について、この場で決めたいと思います。

【調整した結果、令和8年9月8日（火）午後4時30分に決定】

以上で、第3回南三陸町歌津観光交流施設検討委員会を終了いたします。

大変お疲れ様でした。

正午終了